

【調査報告】

江口海岸の縄文遺跡 ～さつき松原遺跡の調査から～

白木英敏

さつき松原遺跡は、福岡県宗像市上八1975-6地先に所在する縄文時代前期の遺跡である。遺物包含層が海岸部に露出し、自然崩壊の恐れがあることから平成21年度に発掘調査を実施した。縄文土器・石器計約300点、ドングリと思われる炭化物などが出土した。宗像地域最古クラスの縄文遺跡であり、当時の古地形・古環境を知る上でも希少な調査例となった。

1.発見の経緯

宗像市さつき松原の海岸は、全長6kmに及ぶ弓状の砂浜と松林が続き、北部九州有数の景勝地としてよく知られています。平成19年、この美しい海岸でちょっとした発見がありました。「遺跡らしいものが海岸に現れている」とたまたま江口海岸を訪れた市外にお住まいの方から宗像市へ連絡が入りました。文化財担当職員が現地に急行したところ、確



第1図 さつき松原遺跡



第2図 調査の様子（遠景は鐘崎）



第3図 調査の様子

かに砂丘下から縄文時代の土器片が顔を出していました。遺跡であることを一般の方が見ぬかれたことに驚くとともに、市教育委員会ではこのままでは大波によって遺跡が消滅する恐れがあることから平成21年10～11月にかけて発掘調査を実施しました。

2.遺跡の概要

遺跡は土器や石器を含む遺物包含層（いぶつほうがんそう）と呼ばれるもので、貝塚のように貝類はほとんど含んでいませんが、縄文時代の暮らしや環境を知る手がかりが残されています。

調査はあまりにも海に近い
ため、波や風との戦いでしたが、いくつかの重要な成果が上
がっています。



第4図 荒れる玄界灘と遺跡（手前）



第5図 さつき松原の縄文土器

時代は縄文時代前期前半の轟式（とどろきしき）土器や前期後半～末葉の曾畑式（そばたしき）土器などがみつかったことから約5000～6000年前の遺跡であることがわかりました。約300点の土器片や黒曜石製石鏃（せきぞく）ほか、ドングリと思われる木の実が少量出土しています。

3. 宗像の縄文遺跡

まず、全国的に著名な縄文時代の遺跡として市指定史跡「鐘崎（上八・こうじょう）貝塚」があげられるでしょう。ここから出土した土器は「鐘崎式土器」（かねざきしきどき）と名づけられ、縄文時代後期前半の標識遺跡としてよく知られています。昭和8年頃に貝塚として認知され、昭和9年から昭和38年にかけて計3回の調査がなされていますが、詳細は判っていません。これまで土器・石器合わせて320点ほどが出土し、貝類にはアサリ・カキ・バイ・アカガイなど海水産のほか、淡水産のシジミ・カワニナが混じっています。このほか、女性の人骨と鹿角製筭（かんざし）2個が出土しています。



第6図 鐘崎貝塚の縄文土器（鐘崎式土器）

このほか、採集品ですが江口の皐月宮付近で前期の曾畑式土器がみつかります。発掘調査された遺跡ではほとんど後期から晩期にかけて営まれた遺跡で、釣川上流域の吉留下惣原遺跡、吉留池ノ浦遺跡、冨地原川原田遺跡、冨地原深田遺

跡などがあります。今のところ入海となっていた釣川中流域では縄文時代の遺跡は確認されていません。

離島に目を向けると絶海の孤島、海の正倉院ともよばれる沖ノ島にも縄文人の足跡が残っており、驚かされます。古墳時代から平安時代にかけての航海安全を祈願した国家的祭祀遺跡としてよく知られていますが、沖ノ島4号遺跡は縄文時代の洞穴遺跡でもあり、前期の曽畑式、中期の阿高式（あたかしき）、晩期の黒川式土器が出土しています。また、社務所前遺跡でも前期、中期、晩期の土器が出土しており、遺跡の範囲も比較的広いことからこの島での中心的な縄文遺跡と推定されています。獲物はサメやベラ、マダイ、フグなど魚類のほか、今では絶滅したニホンアシカなどを追って丸木船で渡海したと考えられます。沖ノ島は縄文時代を通じての定住地ではなく、夏場のキャンプサイト（一時的な居住地の遺跡）とみられます。

4.まとめ

さつき松原遺跡は沖ノ島の縄文遺跡とほぼ同時期から若干遡る期間にいたなまれた遺跡であることがわかりました。離島であるため断定できませんが、最も近い陸地は宗像であり、ムナカタ海人と沖ノ島とのつながりが国家的祭祀の始まる古墳時代より遥かにさかのぼることも考えられます。

また現在の砂丘の下には古砂丘と呼ばれる大昔の砂丘が隠れており、さつき松原遺跡は今の砂丘と古砂丘とにサンドイッチのようにはさまれていることがわかりました。古砂丘はさらに海まで延びていたと推測されることから、縄文時代前期



第7図 遺物包含層の堆積状況

頃の海岸線はもっと沖合いにあったとみられ、古地形を考える上でも重要な手がかりを示す遺跡といえます。

今回の調査区は遺跡のごく一部であり、集落の中心エリアは山側の東南側へと広がるものと推定しています。住居跡や貝塚、墓などムナカタ縄文人の生活構造を知る遺構は、さつき松原が広がる現在の砂丘下に良好な状態で残されている可能性が高いでしょう。

参考文献

宗像神社復興期成会編1979「宗像・沖ノ島」

花田勝広2005「第2章 鐘崎貝塚の縄文土器」『倭政権と古代の宗像』